

『浜松市民文芸第70集』を発行しました



表紙は、令和6年度第72回市展で、市長大賞を受賞した絵画「まいご」志村菜美さんの作品です。

裏表紙は、静岡大学地域創造学環の学生さんたちの制作です。少女が本を読む姿の上に、「いやしの文芸」とあります。

『生成AIの普及が進む今こそ、自ら考え書くことを大切にしたい!』そんな思いで発行しているのが、「浜松市民文芸」です。節目の70集となりました。今年は、小説・児童文学・評論・随筆・詩・短歌・定型俳句・自由律俳句・川柳の9部門に、1883点、457名の市民の皆さんの応募がありました。自ら書き、自ら読み(詠み)、文学・文芸に親しみ、挑戦した作品が掲載されています。ぜひご覧ください。

※クリエート浜松5階の浜松文芸館廊下に閲覧用書架があり、市民文芸をご覧いただけます。

※お求めの方は、1冊700円で、文芸館窓口とアクトシティチケットセンターで販売しています。

(現在、販売用は残り20冊ほどです。デジタル公開もしています。↓)

文芸館ホームページにも掲載しました。ご覧ください。

<https://www.hcf.or.jp/facilities/bungei.html>



節目の70集にちなみ、共に浜松市出身で東京を舞台に活躍されている選者のたかはたけいこ先生(随筆部門)と高柳克弘先生(定型俳句部門)に特別寄稿文をお願いし、冒頭に掲載しました。また、今回から文字の大きさを若干大きくすることができました。市民文芸賞に高校生の作品が評論部門で一点選ばれ、また、複数の部門で市民文芸賞を受賞された方がいらっしゃいました。71集も多くの世代の皆さんの応募をお待ちしています。新しい応募要項は、7月頃から配布できる予定です。69集から、自作・未発表であることを、自分でチェックする欄を新設しました。ご協力願います。